

**平成 28 年度第 4 回 京都市市民参加推進フォーラム**  
**分析第 1 部会 摘録**

■分析対象事業

～ I C T を活用した市民協働による維持管理～「みっけ隊アプリケーション」

■出席者（市民参加推進フォーラム委員 分析第 1 部会委員 6 名）

川島部会長，芝原委員，杉山委員，津田委員，樋口委員，吉川委員

【議事内容】

<川島部会長>

資料 1－2 の「みっけ隊アプリケーション」の分析結果について，ポイントが 5 つにまとめられている。このポイントで足りているか，前回の議論から漏れている箇所はないか，修正箇所はないかということを議論したい。

なお，分析については，事業の良い点を抽出することを基本に進めているが，工夫が必要な点，改善できる点などの意見があっても良い。

「事業概要等」（資料 2 ページ）について

<芝原委員>

「市民参加の観点での特徴」の項目について，「市民ニーズを取り入れた」という記載があるが，例えば，「より良いものができた」，「一緒に作ることができた」など，市民と行政が対等の立場であることが伝わる記載の方がよい。

<樋口委員>

「事業概要」の項目について，「『自分たちのまちは自分たちで守る』という高い意識を持つ市民に対して市民参加を呼びかけた」という記載があるが，意識の高い方だけに呼びかけたのではないはず。実際は，多様な年代の方が参加されていた。

「ポイント 1」（資料 3 ページ）について

<樋口委員>

「土木管理課や土木事務所において，若手職員の意見を取り入れる土壌があり」という記載があるが，他の所属でもそういった土壌はあるはず。ワークショップを行うというアイデアを採用した，ワークショップの名称について役所っぽくない「〇〇アプリ」というアイデアを採用したなど，上司が部下をどう応援したのか具体的な記載が必要である。

また，「ポイント 5」（資料 5 ページ）の本文の 3 行は，若手職員の発案に関することなので，「ポイント 1」に記載した方がよい。

## 「ポイント2」(資料4ページ) について

### <樋口委員>

「地域活動に興味のある人を中心に呼びかけをした」という記載があるが、京都市に都合の良い人だけに呼びかけたわけではないと思うので、「地域活動に興味のある人に積極的に呼びかけた」などの記載の方がよい。

### <川島部会長>

2段落目について、ヒアリングでは、「スマートフォンを持っていない参加者に対して、職員が寄り添って使い方を教えた。」という話があった。そういった苦勞した話も記載した方が、より伝わりやすい。

## 「ポイント3」(資料4ページ) について

### <吉川委員>

「土木施設の市民協働型の維持管理について、市民と担当部署とで共通認識を持つきっかけとなった」という記載が抽象的である。「ワークショップ参加者に、草むしりなどは自分達でできるといったことを気づいていただけるきっかけになった」といった具体的な事例を記載した方がわかりやすい。

### <津田委員>

2段落目の文章が少し分かりにくい。

### <芝原委員>

2段落目の文章については、職員が具体的に何を説明したのか分かった方がよい。

### <樋口委員>

私はワークショップに参加していたが、職員の方が「電話やファックスで要望を受け付けることを辞めるわけではなく、よりスピード感を持って対応するためのアプリ開発である」という説明をされていた。そのことを2段落目の文章に記載してもよいと思う。

## 「ポイント4」(資料5ページ) について

### <樋口委員>

ワークショップの意見を取り入れて作成した機能は、他都市の同様のアプリにはないので、「京都市独自の機能」とはつきり記載した方がよい。

<杉山委員>

アプリの発想そのものも良かったが、企画段階で市民意見を聴く姿勢が大事であり、市民意見を聴いたことによって、アプリがより良いものになったという結果が大事である。

#### 「ポイント5」(資料5ページ) について

<樋口委員>

「様々な工夫」という記載があるが、どんな工夫か具体的な記載が必要である。

また、「職員が充実感を持って取り組むことができた」という記載があるが、その理由がもう少し記載されている方がよい。

#### 「その他」(資料5ページ) について

<樋口委員>

「対応の見える化」という記載があるが、「アプリに投稿日が表示されるので、対応をできる、できないも含めて、速やかに返答するようになった」「今までよりもスピード感を持って動くようになった」など具体的な記載が必要である。

#### 資料全体に関係する発言

(数値の記載について)

<津田委員>

充実感、納得感という言葉がいくつか記載されているが、何人の方が納得したといった数値がある方が具体的で分かりやすい。

<吉川委員>

数値であれば、所管課へのヒアリングで「施設の補修等を要望するFAXが減った」という話があった。

<芝原委員>

「アプリのダウンロード数が想定以上であった」という話もあった。

(まとめ方について)

<川島部会長>

ポイントごとに「期待する」という言葉が多くでてくるので、タイトルは「2 ヒアリング等に基づく分析結果と所感」の方がよい。

<樋口委員>

資料が時系列に沿ってまとめられているので、「ポイント」という見出しより、「プロセ

ス」という言葉の方がしっくりくるかもしれない。

<川島部会長>

まとめ方は、分析第2部会と揃える必要があるので、全体会議でも議論したいと思う。

(課題について)

<川島委員>

参加者への呼びかけについて、地域活動に興味のある人、意識の高い人ばかりに行ったのであれば、市民参加の広がりという観点からも、呼びかける対象をもう少し広げることも必要である。

<芝原委員>

ワークショップに参加した人に、アプリのことを広めてもらう伝道師になってもらうために、アプリ開発後の働きかけがもう少しあった方がよい。

<川島部会長>

芝原委員と同じ意見である。一度、市民参加をして、面白かったという実感を持ってもらえた方は、市民参加そのものの伝道師になり得る方である。市民参加の面白さも広めていただける可能性がある。